

日本は天秤の中心支点に

——今後の日中関係への指針

米中対立の渦中において、「二者択一を迫られる」「踏み絵を踏まされる」ことがないようにするために、日本はどうすればいいか。

(2021年5月12日開催、日外協講演会「米中関係の行方」から抜粋)

麗澤大学 名誉教授 三潁正道

大衆エネルギーこそ発展の原動力

中国の強みを10項目挙げてみたい。

1. 巨大な市場

購買力のある市場としてだけでなく、先端技術などの分野では14億人の基準がグローバルスタンダードになり得る。

2. 開発独裁の実行力と大衆エネルギー

多少反対があっても押し切って迅速に実行できる。同時に、大衆エネルギーは中国発展の原動力。改革開放ははじめ様々な施策で行われてきたのは、規制を取り払い地方政府や民間企業に自由にやらせてみて、中央政府は後から承認するというボトムアップ。

3. 「まずやってみよう」精神

失敗を恐れず既成観念に捉われない。「先例がないからこそやってみる」が中国人の発想。

4. 壮大な地域発展戦略

1980年代に沿岸部に設けられた「特区」に始まる地域発展戦略で、成功モデルを他の地域へも広げ「下沈(地方都市)経済」を下支え。都市・地域間を道路、鉄道、電力・通信網で結びつけることによって、全国的なレベルアップにつながった。さらに国境を越え「一带一路」(実際は「五帯六路」)に。

5. 世界的中華系ネットワーク

「一带一路」にも世界各地の華僑・華人が貢献。

6. 技術の発展と産業化

IT、AI、宇宙、生命工学、新物理学など先端分野で、官・学・研の共同研究が成果を上げている。キャッシュレスの普及は日本とは比較にならないぐらい進み、プラットフォームが急成長を遂げた。測位衛星システムをはじめ航空宇宙技術の開発も目覚ましい。

7. 社会保障の普及

13次5カ年計画で農村貧困人口5575万人が貧困を脱却。基本医療保険で13億人以上、基本養老保険で10億人弱をカバー。

8. 教育の充実と人材の養成

習近平政権になり教育には特に注力。

9. 軍事力の充実

アジアでは圧倒的優位に。

10. 旺盛な起業意欲

起業エネルギーはますます勢いを増している。

反対に中国の弱みは、強みの裏返しでもある。例えば、巨大人口は高齢化と労働力人口の減少という問題に直面しつつある。開発独裁(専制強権国家)と偏狭なナショナリズムは、世界市場とのつながりを強める中国にとって明らかにマイナス。地域発展の一方で、新疆、チベットなど少数民族問題を抱える。先端技術では先進諸国と軋轢が生じている。アリババなどプラットフォームと国民、国家の正三角形の関係は、プラットフォームの影響力が大きくなりすぎ